



波紋

設立12年めを迎え さらなる歩みをすすめます

- 設立10周年記念式典が力強い土台となりました
- 認定NPO法人取得でパワー増大を
- 新たな活動会員の力を得ました

本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

NPO法人 教育活動総合サポートセンター

理事長 藤田 力

発行所 教育活動総合サポートセンター
 〒213-0033 川崎市高津区下作延5-11-8
 TEL: 044-877-0553 FAX: 044-877-0980
 E-mail: support0731@luck.ocn.ne.jp
 ホームページ: http://www.kks-support.sakura.ne.jp
 印刷 西桜印刷株式会社
 TEL: 03-3568-2543

特定非営利活動法人
 教育活動総合サポートセンターだより
 「波紋」 第12号
 発行人 藤田 力
 題字デザイン・山口正勝



「子たちに力を」を合言葉に
 取り組んできた平成26年度は、10
 周年記念式典で語られたNPOサ
 ポートセンター設立の思いが支え
 となった年といえよう。当時、ご
 苦労された井口、宮田、佐々木各
 歴代理事長が顧問に就任され、ご
 示唆をいただきつつも「新しい発
 想で進めなさい」というあたたか
 い言葉がエネルギーとなった。事
 務局の運営構想を軸に総務部、経
 理部、事業部等の連携や、研究・
 相談・学習等々の推進など、組織
 および各サポート施設や指定管理
 事業との連携が一層強化された。
 これは経理部による会計改善や今
 年度より設定した「事務局長・次
 長会議」の成果といえる。サポー
 トセンターの健全財政、過重労働
 の解消、心身の健康保持等に至る
 まで活動会員の声を生かす話し合



いの成果ともいえよう。

次に文部科学省委託研究があげ
 られる。今年度で10回目を数え、
 設立2年めからの延長上にある
 (平成23年度は自主研究) 研究報
 告会である。「継続は力なり」と
 あるが、まさに私たちの設立使命
 の根源ともいえる。「不登校」を
 軸にいじめ等の問題、福祉と教育
 の融合のあり方等の研究をしてき
 たが、その研究の経過の中で生ま
 れた「チェックシート」や「特化
 指導プログラム」は我々の財産と
 もいえる。過日、平成26年度の中
 学3年生の進路状況について学習
 部より報告があった。50人すべて
 の子どもがこのサポートセンター
 (宮ノ下、南野川、旭町) からそ
 れぞれの道へ巣立つことができ
 ました。まさにこの財産の成果といえよう。
 平成27年度の大きな課題は認定
 NPO法人取得である。この取得
 により財政面の補強によるパワー
 増大が見込まれるが、一方寄付を
 受ける法人としての社会的責任が
 一層増すものと考えられる。初心を忘
 れずに新しい仲間とともに力を合
 わせ進みたいと思う。
 今後とも関係機関のご支援をよ
 ろしくお願い申し上げます。

27年度活動方針・事業計画

「子たちに力を」の法人設立の理念
 に基づき、各事業が効果的に活動でき
 るよう組織機能の一層の充実を図る。

1 活動方針

① 基礎基本を重視した学習支援によ
 り学力の充実を図る。また、様々
 な体験活動を通して、学校復帰や
 社会への参加促進を支援する。

② 家庭・学校・地域および関係機関
 等との連携を深め、相談活動を中
 心とした社会福祉活動の充実を支
 援する。

③ 一人ひとりの児童生徒が自立し、
 心豊かに生きていける力を身に付
 けられるよう支援する。

2 事業計画

① 教育・福祉に係わる相談事業

② 教育・福祉相談事業

③ 不登校児童生徒、特別な教育支援
 を必要とする児童生徒、不適応、
 問題行動等のある児童生徒や保護
 者の相談活動を推進する。

④ 不登校等に悩む保護者の意見交換
 事業

⑤ 川崎市教育会館・相談事業

⑥ 不登校やいじめ等の学級経営上の
 諸問題について、教員等からの相
 談に応じ、支援する。

⑦ 適応指導に関する事業

⑧ 不登校、問題行動等に悩む児童生
 徒およびその保護者への支援活動
 に取り組む。

⑨ 不登校やいじめ等の学級経営上の
 諸問題について、教員等からの相
 談に応じ、支援する。

⑩ 不登校等に悩む保護者の意見交換
 事業

⑪ 川崎市教育会館・相談事業

⑫ 不登校やいじめ等の学級経営上の
 諸問題について、教員等からの相
 談に応じ、支援する。

⑬ 適応指導に関する事業

⑭ 不登校、問題行動等に悩む児童生
 徒およびその保護者への支援活動
 に取り組む。

⑮ 不登校やいじめ等の学級経営上の
 諸問題について、教員等からの相
 談に応じ、支援する。

⑯ 不登校等に悩む保護者の意見交換
 事業

⑰ 川崎市教育会館・相談事業

⑱ 不登校やいじめ等の学級経営上の
 諸問題について、教員等からの相
 談に応じ、支援する。

⑲ 適応指導に関する事業

⑳ 不登校、問題行動等に悩む児童生
 徒およびその保護者への支援活動
 に取り組む。

㉑ 不登校やいじめ等の学級経営上の
 諸問題について、教員等からの相
 談に応じ、支援する。

㉒ 不登校等に悩む保護者の意見交換
 事業

㉓ 川崎市教育会館・相談事業

㉔ 不登校やいじめ等の学級経営上の
 諸問題について、教員等からの相
 談に応じ、支援する。

㉕ 適応指導に関する事業

㉖ 不登校、問題行動等に悩む児童生
 徒およびその保護者への支援活動
 に取り組む。

㉗ 不登校やいじめ等の学級経営上の
 諸問題について、教員等からの相
 談に応じ、支援する。

㉘ 不登校等に悩む保護者の意見交換
 事業

㉙ 川崎市教育会館・相談事業

㉚ 不登校やいじめ等の学級経営上の
 諸問題について、教員等からの相
 談に応じ、支援する。

に対し個々の能力や特性に合わせ
 た支援を行い、学習への興味関心
 を醸成し登校力を高める。

① 外国籍児童生徒学習支援事業

② 日本語支援東小倉

③ 学習支援・居場所づくり事業

健全な育成環境を維持することが
 困難な被保護世帯等の生徒への学
 習支援や居場所をつくることによ
 って、円滑な学校生活を送れ、高
 校進学ができるよう支援する。

④ 学習支援川崎教室

⑤ 学習支援幸教室

⑥ 学習支援宮前教室

⑦ キッズセミナー事業

⑧ サイエンスキッズ事業

⑨ 寺子屋「西生田」・「高津」事業

⑩ 特別支援教育に関する事業

⑪ 特別支援教育事業

⑫ 実態に応じた教材・教具の開発、
 自立に向けた支援を行うことで社
 会生活の基礎力を育成する。

⑬ 発達障害のある児童生徒の保護者
 支援事業

⑭ 体験活動等に関する事業

⑮ ふれあい体験活動

不登校児童生徒や障害のある児童
 生徒が自ら進んで活動できるよう
 支援する。

⑯ 麻生のびのびファーム事業

農業体験を通して食育の充実を図る。

⑰ 研究研修に関する事業

⑱ 文部科学省委託研究事業

研究主題「不登校・いじめをはじめ
 とする問題行動等への対応」に準じ
 た副題を設定し、これまでの研究成
 果を基に児童生徒を取り巻く課題解
 決に向けて研究を推進する。

⑲ 文部科学省委託研究事業

研究主題「不登校・いじめをはじめ
 とする問題行動等への対応」に準じ
 た副題を設定し、これまでの研究成
 果を基に児童生徒を取り巻く課題解
 決に向けて研究を推進する。

⑲ 文部科学省委託研究事業

研究主題「不登校・いじめをはじめ
 とする問題行動等への対応」に準じ
 た副題を設定し、これまでの研究成
 果を基に児童生徒を取り巻く課題解
 決に向けて研究を推進する。

⑲ 文部科学省委託研究事業

研究主題「不登校・いじめをはじめ
 とする問題行動等への対応」に準じ
 た副題を設定し、これまでの研究成
 果を基に児童生徒を取り巻く課題解
 決に向けて研究を推進する。

⑲ 文部科学省委託研究事業

研究主題「不登校・いじめをはじめ
 とする問題行動等への対応」に準じ
 た副題を設定し、これまでの研究成
 果を基に児童生徒を取り巻く課題解
 決に向けて研究を推進する。

⑲ 文部科学省委託研究事業

研究主題「不登校・いじめをはじめ
 とする問題行動等への対応」に準じ
 た副題を設定し、これまでの研究成
 果を基に児童生徒を取り巻く課題解
 決に向けて研究を推進する。

⑲ 文部科学省委託研究事業

研究主題「不登校・いじめをはじめ
 とする問題行動等への対応」に準じ
 た副題を設定し、これまでの研究成
 果を基に児童生徒を取り巻く課題解
 決に向けて研究を推進する。

- (7) 青少年の健全育成を図るための環境整備に関する事業
 - ① 初任者研修等指導員配置事業
新規採用教員が配置された学校に初任者研修等指導員を配置し、新規採用教員の資質の向上を図る。
 - ② 教育活動サポーター配置事業
児童生徒の健全な成長を図るために、担任教諭の補助活動を行うサポーターを配置する等で児童生徒の学習意欲の向上を図る。
 - ③ 特別支援サポーター配置事業
特別な教育的支援が必要な児童生徒の学校生活の充実を図るために学校からの要請により、担任教諭の補助的活動を行うサポーターを配置し、支援する。
 - ④ 輝け☆明日の先生の会事業
教員を目指す臨任、非常勤教員、大学生等に教師としての資質向上のための講義・ゼミを行う。
- (8) 講演会等の事業
 - ① 不登校児童生徒に関するパネルディスカッション
不登校に悩む児童生徒の保護者、教育関係者を対象に、各分野の専門家パネルリストとして不登校に関する諸問題について意見交換を行い学校復帰を図る。
 - ② 不登校等に関する講演会事業
 - (9) 文化活動推進に関する事業
 - ① 川崎市青少年の家運営事業
自主事業の充実・発展に努め地域・家庭・学校との連携を図るとともに、市民の文化活動等の増進に寄与する。
 - ② 大山街道ふるさと館運営事業
ふるさと館の運営と地域の歴史、民俗資料の展示活動、文化活動、講演活動及び地域住民との連携に努めつつ市民の幅広い参加を図る。

平成26年度 文部科学省委託研究

主題 「不登校及びいじめをはじめとする問題行動等への対応」
～福祉と教育の融合のためのコーディネート～

文部科学省委託事業

文部科学省からの受託研究は、「いじめ対策等生徒指導推進事業」であった。これを受け、当サポーターセンターでは標記の主題及び副題を設定し、3か所の「こどもサポーター」を学びの居場所にして113人の子供が直面していたいじめや不登校等の課題の解決・改善に向けた実践研究に取り組んだ。研究の柱は、次

- 一 子供理解のための調査
 - 二 特化指導プログラムによる実践
 - 三 福祉と教育の融合のためのコーディネートの方
- 「いじめ」を主訴に不登校の状態にある子供の個別支援計画と支援の実際の記録及びいじめのアンケート結果から、研究主題にかかわる一定の成果を得ることができた。また、学校教育に求められる、多様な支援のあり方及び課題解決に向け関係機関の専門性の発揮をコーディネートするあり方を検証できた。

川崎市青少年の家

- 「エコチャレンジクラブ」
- レッツチャレンジ昔あそび
- 放課後おもしろクラブ
- よちよち歩きの子あつまれお話し会、親子人形劇、親子リトミック
- プール開放
- シニア卓球
- 子ども運営委員会
- 青少年の家フェスタ

「常に向上をめざして」等よちよち歩きの子からシニアまで、誰もが楽しく参加できる事業を行っています。

(鈴木陽)

大山街道ふるさと館

平成26年から、ふるさと館の指定管理を受け2年めを迎えます。講演・講座、各種の展示事業を拡充、地域活性化事業の推進など、さらに進めていきます。

今年度は、来館者のためにテレビ画像を使って、大山街道、高津周辺、館内がより理解できるように取り組みます。小中学生に向けても、子ども探検クラブ、出前授業など地域学習の援助も強化します。

(對馬)



研究協議会報告

平成26年度の研究は、文部科学省からの「いじめ対策等生徒指導推進事業」を受け、冒頭の表題について取り組んだ。研究の柱は、

「児童生徒理解のための多面的調査」「問題行動の改善に向けた特化指導プログラムによる取組」「福祉と教育の融合に向けた実践」の3本である。

来賓として出席された文部科学省の亀田徹視学官からは、挨拶の中で「学校外で学ぶ子にどう支援するか、成果を参考にしたい」との話があった。

研究報告の後の協議では、保護者やNPOの方、学校関係者や各



機関等、様々な方から発言があった。他機関との連携については、学校関係者から、外国人の子の指導について、教育センターや保育園等とのケース会議を開いて対応した。機関からの適切な助言があった。機関からは貧困家庭の子への家庭を含めた全体支援が必要である等の発言やサポーターセンターの取り組みは、子供たちに自信をつける取り組みであるとの感想もいただいた。

(片山)

「輝け☆明日の先生の会」

サポーターセンター主催、総合教育センター主催の「輝け☆明日の先生の会」も9年め。今年度は資料代を徴取せず10名の川崎の教員を目指す臨任、非常勤、社会人、大学生が受講しました。川崎の教育の実情を短期集中の全7回で熱心に講座、ゼミが展開され、4月から38人の受講者が小中高の子どもの前で輝く姿を見せられると思います。講座、ゼミでは、NPO会員の皆様に永年培った経験を發揮してご協力いただき、感謝いたします。今年も活気ある会にさせていただきます。

(石川)

初任者研修等指導員配置事業

川崎市の公立小・中学校に採用された先生方を対象に、退職校長等を中心に各学校に配置し、初任者研修にあたっています。理想と現実のギャップに直面しながら日々がんばっている初任者の課題解決に向けての幅広い助言を行っています。また、初任者の応援団として元気づけることも大切にして研修を進めているところ です。

(入山)

サポーター配置事業

川崎市教育委員会と連携した事業で、全市の小中学校、中学校、高校、特別支援学校の指導補助者として大学生を中心に教員経験者、地域協力者等を各学校に配置しています。現在では、毎月約600人前後のサポーターが活動しています。学校の希望を第一に考えた対応に努めており、教育最前線の学校からは大変頼りにされています。

(牧田)



学ぶ喜び 楽しさ

いっぱいの子たち

に来て良かったと思います。

(小4 H・M)

楽しくなった勉強!

ぼくは、4年生の時からセンターで勉強するようになりました。それまでは自分で勉強していましたが、よくわからないところがたくさんありましたが、算数の難しい問題もわかるようになりました。歴史の勉強では博物館でたて穴式住居を見学し、それからは、歴史の勉強が、好きになりました。これからもセンターで学んだことを生かして、がんばります。

(小6 Y・H)



算数ががんばろう!

私はサポートセンターにきて、まだ、ひと月になりません。私が算数が分からなくなってきたのは2年生の時からです。学年が進むごとにますます分からなくなってきました。センターに来てから分かるようになってきました。どんな時にわり算・かけ算にするのかも分かってきました。文章題も今までよりは分かるようになりました。九九もしつかり言えるように、これからがんばります。センター

初めての習字

ぼくはサポートセンターで、初めて習字をしました。ぼくは左ききなのですが、あとから右手でやってみたら、右手の方が書きやすかったです。右側の方を書いたのですが、止めるところが難しかったです。

(小6 H・Y)

勉強の楽しさを実感

私はサポートセンターへ通い始めてから勉強が楽しいと思えるようになりしました。それまで私は勉強に対し、めんどうくさいやつまらないという印象を持っていました。

娘は、中学1年生の後期から不登校で、ほとんどの時間を自宅で過ごしていました。思い出したように教科書を読んでも内容を理解できず、勉強方法も徐々にわからなくなりました。

これからもあせらずに娘らしく

「学校に行けなくても勉強をしていたら、みんなと同じように高校に行ける」と考えていた娘は、自信をなくしていききました。私は、少しでも前に進むことができたかと思ってい

ました。ですが、どうしたらよいかかわからずに悶々としていました。その頃サポートセンターの先生に、私たち親子の話を聞いていただく機会がありました。自分たちの状況を理解していただき、安心と希望を持つことができるようになりました。娘は、予定を立ててサポートセンターに行き、家族以外の人と話し、勉強をして少しずつ自信

この春、中学校を卒業し高校に進みます。サポートセンターを巣立つ娘を今後も見守っていただきます。と思います。

(中3 母 T・S)



がんばった、最後の1年間

僕は小学校の5年生の頃から理由もなくわからないけれど学校を

私は小学生の頃、親に無理やりサポートセンターに連れてこられました。初めはいいやや通っていましたが、通い慣れるとすすんで勉強するようになりました。センターでは一対一で教えてくれるの

初めはとても緊張しましたが次第に慣れていき、友だちもできました。勉強の面では、サポートセンターに通って、何とか授業についていくことができました。1年間学校に通い続けた結果、希望する高校にも合格することができました。今は最後の1年間学校に行つてよかったと思っています。

(中3 Y・H)

個性も受けとめてくれた

「子たちに力を！」の思いを胸に

子どもサポート宮ノ下・旭町・南野川には、26年度も合わせて約140人の小中高生が居場所を求め、学習支援の場を求めて集いました。通所の背景にはそれぞれが抱えている事情や課題がありますが、ある子は必死の思いで、ある子はホッと笑顔をみせながら通い続けているのです。中3年・高3年については、通所している50人全員、彼らの努力が実って進学・就職の希望を叶えました。

子たちに力を！の思いを胸に、私たち所員も笑顔忘れず、全力で取り組んでいます。

(学習支援担当 青木)

で、時々雑談しながらも楽しく勉強ができました。

私はその後中国に帰ることになり、一時期サポートセンターを離れ、中国の学校に通いました。2年半後に戻ってきて、再びサポートセンターに通うようになりました。担当の先生は替わりりましたが以前と同じ一対一の学習で苦手なところをていねいに教えてくれました。また先生たちは私の個性も受け止めてくれてうれしく思いました。この数年間サポートセンターに通えてとてもよかったと思いました。

サポートセンターの先生方、本当にありがとうございます。

(中3 Y・K)

教育相談活動についての案内

「子どもが学校に行けなくなつた。親としてどう対応すればよいかわからない」「学校の勉強についていけないようだ。子どもの将来が心配」「発達障がいと診断を受け、親として戸惑っている」等々、教育上の悩みに関する相談を多数受けています。

当サポートセンターでは、登校できない状態にある児童生徒等に対する学習支援を行っています。そのため、サポートセンターでの学習の進め方や通っている子どもたちの様子を知りたいということで、相談や見学に親子で来所されることが多いようです。相談や見学を希望される方は、

電話での相談申し込みをお願いいたします。

- ・相談受付
- ・教育活動総合サポートセンター
- ・電話受付 月～金 10時～17時
- （土日祝日 年末年始を除く）
- ・所在地
- 〒2113-0033
- 川崎市高津区下作延5-11-8
- ・電話
- 044-877-0553



(本間)

こどもサポート旭町

開設5年めの平成26年度は、登録者の増加、子どもの生活力、登校力に大きな変容を見ることができました。

これは、当所の必要性、要求度の高まりと同時に、スタッフの創意ある教育福祉活動が実を結んだものと思います。

実を結んだ成果として特筆すべきは、平成27年より開所日が拡大されることになりました。週3日から週4日となります。

不登校、ひきこもりの子ども達に寄り添い、笑顔と自信の居場所づくりをめざします。(宮内)

こどもサポート南野川

子ども子育て支援事業の一環として宮前区により設置され、7年目を迎えました。子どもたちは恵まれた自然環境の中で、自分のペースに合わせて通所し、思いの活動をしています。卓球が得意な子、虫や小鳥の観察が好きなお子、畑作業に汗を流す子など、体を動かしながら徐々に自信を取り戻し、少しずつ笑顔を見せるようになりました。教科の勉強に取り組む中で登校に心を動かす子や、高校進学イメージを持ち始める子もいます。今後も子ども達に寄り添い一歩を支えたいと思います。(樟山)

日本語支援 東小倉

「日本語支援東小倉」は日本語を母語としない外国につながる児童生徒の日本語の習得、学習の遅れを補うことを目的として、平成24年に幸区役所生涯学習支援課が開設、その委託を受けて東小倉小学校の多目的教室を拠点に活動をスタートさせました。

水曜日の午後、現在は中国語、英語を母語とする11人の子どもたちが来室し、ボランティアやNPO職員が1対1で支援を行っています。

保護者と一緒に来ることが多く、情報交換の場ともなっています。また音読会やお楽しみ会等を通して楽しくふれあい、安心できる居場所という役割を担っています。(堤)

学習支援・居場所づくり事業

川崎市健康福祉局からの受託事業で、当サポートセンターは市内3か所で事業展開している。生活困難家庭の生徒（原則として中学3年生対象）に学習支援や教育支援さらに居場所づくりを目的として平成24年度から開始した。

毎週火・木曜日の午後6時～9時、学習支援川崎教室・学習支援幸教室、水・金曜日は学習支援宮前教室で各教室に配置されたコーディネーター・学習支援専門員の指導のもと、学習サポートが、個々の学習課題に向かう子ども達の学習支援に取り組んでいる。これとは別に夏期冬期の長期休業期間中には集中講座（一日6時間の学習）、夏

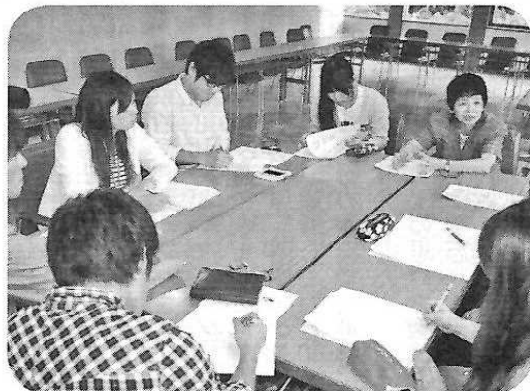
ふれあい体験活動

「自分でやろう・みんなとやろう・みんなと楽しむ」を合い言葉に、年5回の「ふれあい体験活動」を行っています。平成26年度は、延べ52人の小・中・高校生が参加しました。調理活動では、ひとり一人が調理分担に取組み、パーベキュ1、豚汁、お好み焼などを作り、その美味しさに思わず笑顔。ふれあいタイムでは、紙鉄砲作り、紙芝居師による紙芝居の実演、そして地域のお父さん達によるミニコンサートなどを楽しみました。この活動を通して友だちの輪が広がります。(柴田)

休みには青少年の家で1泊2日の合宿を実施し、学習はもちろんのことレクリエーション活動やプラネタリウム見学等の思い出づくりも取り入れている。また、より質の高い学習支援を目指し、年2回の教育サポーター研修会を企画・運営している。教員志望の学生・社会人サポーターも多く、貴重な教員としての指導体験の一助にもなっている。この事業により前年度の中学3年生の卒業後の進路状況は次のようであり、以前にもまして大幅に改善され、成果が表れていると考えられる。

- （高等学校進学者数）
- 学習支援川崎教室 (19/20人)
- 学習支援幸教室 (25/25人)
- 学習支援宮前教室 (14/14人)
- (鈴木真)

編集後記



平成26年度は活動会員、賛助会員多くの皆さんのおかげで、滞りなく事業を終えることができた。改めて感謝申し上げたい。新たに始まった寺子屋事業も軌道に乗り、今年度はさらにもう一か所拡充の予定であり、サポートセンターの受託事業も20を数えるほどになった。また、2月に行われた文科省委託研究報告会には190人を超える参加者を迎え、研究主題の今日的な重要性を改めて実感した。当サポートセンターの認定化への取組も終盤に差し掛かり、年度内の決定が待たれるところである。新たな仲間を迎え、新しいサポートセンターづくりに邁進する決意である。(本告)